

# 日吉台地下壕保存の会会報

第86号  
日吉台地下壕保存の会

## ガイド養成講座修了、そして新たな出発に向けて、 「日吉平和ミュージアム」建設に向けて

日吉台地下壕保存の会会長 大西章

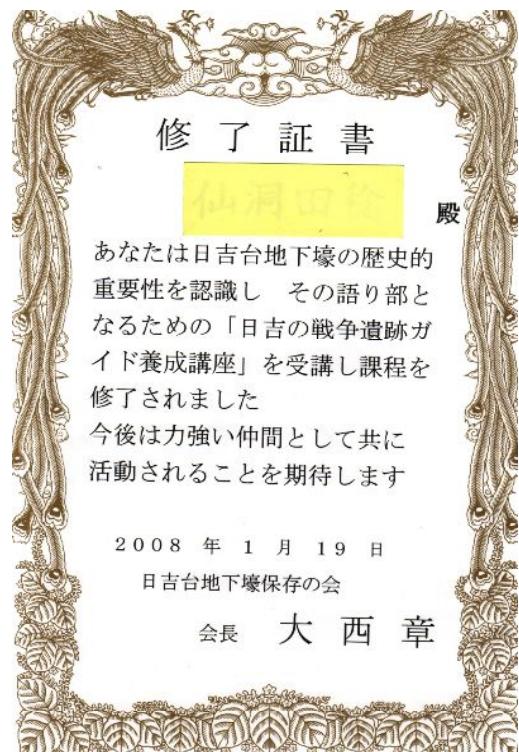
年頭の挨拶と言っても既に2月になってしまい、少し遅いですがあけましておめでとうございます。本年もよろしくお願いします。

この1年を振り返ると社会的には「戦後レジームからの脱却」と称して憲法改正のための国民投票法や教育基本法の改正が十分な議論のないままに強行採決で成立しました。しかし、それに対する国民の危機感から参議院選挙で自民党が敗北しました。また、首相も交代し新たな変化も見えてきたような気もします。また世界に目を向けると各地で戦争が行われています。このような状況の中で平和とはと考えてしまいます。

昨年12月に行われた戦争展の大湖氏の報告（会報p7）に長崎出身の森優次氏の発言「（戦争に対する：大湖補足）執拗なまでの恐怖のすり込み、被爆地長崎を通した歴史観や加害者としての日本という一方的な歴史観の押し付け」は深い意味がある気がします。氏は「歴史教育のなかでの平和教育」の必要性を強調しています。戦争を考えるときに人に対する優しさや思いやりなど価値観が一番大切だと思いますがそれに加えてどう歴史を理解して過去を未来につなげるかということも大切だと思います。それにはまず客観的に事実を伝えることが必要です。地下壕で実際に何が行なわれていたかを当時の社会状況の中で考え、歴史を学ばなければいけないと思います。そしてその上でどのように平和な社会を築き上げていくかを考え、行動することが必要だと思います。価値観の押し付けはいけません。

今回ガイド養成講座に参加している方たちとお話をすると自分の価値観でお話になり、地下壕に関する事実を勉強しながらガイドする姿勢がありました。大変聞いていて安心をしました。そしてその勉強の場、資料展示の場、みんなで考える場として「日吉平和ミュージアム」の建設の必要性があると感じました。（会報p3）

この1年は文化庁の『近代遺跡調査報告書』が発表され、また慶應義塾150周年の年で新たな展開が予想されます。皆様と一緒に地道に楽しく運動を続けて生きたいと考えています。



港北区ふるさとサポート事業  
日吉の戦争遺跡ガイド養成講座  
PART III 実施される  
—修了せず、新しいスタートを—

日吉の戦争遺跡について深く知り、考え、案内できるガイドを養成する本講座は、三回を重ね、今年度も多くの成果を上げ、好評のうちに講座そのものは一つの区切りとなりました。港北区「ふるさとサポート」事業の予算助成を受け、チラシを作り、ガイドブックも作成し、これを区内小中学校に配布、また、講座の各回も毎回20名前後の参加者があり、実際のガイド活動も行われ、意欲的なガイドの仲間が育っています。戦争遺跡の保存へ向けての取り組みは大変奥が深く、6回目の修了式ではこれで終了ではなく、ガイド活動への新しいスタートであることが皆で確認されました。今年度の講座の概要は以下の通りです。

## ○ 第1回

10月6日(土) 慶應義塾大学日吉来往舎中会議室

10:00～14:30

(午前) 講座「戦争遺跡ガイドのすすめ」新井揆博

—日吉の戦争遺跡の特長とガイドの心得—

(午後) 慶應義塾日吉キャンパス周辺の  
戦争遺跡見学



ガイド実践

## ○ 第2回

10月20日(土) 慶應義塾大学日吉来往舎中会議室

10:00～14:30

(午前) 講座「近代日本の戦争を問い直す」渡辺賢二

(午後) 日吉の丘周辺の戦争遺跡見学

※第1回 第2回の概要は会報85号に詳報されています。参照下さい。

## ○ 第3回

10月27日(土) 日吉駅前集合 13:00

ガイド実践 慶應キャンパス内の戦争遺跡見学

(司令部地下壕を中心) 質疑討論 台風接近のため早々に切り上げる。



チャペル前でガイドする受講者

## ○ 第4回

11月10日(土) 来往舎前集合 13:00

ガイド実践 慶應キャンパス内の戦争遺跡を

分担に応じて各自ガイドする

(司令部地下壕を中心に) 質疑討論

## ○ 第5回

12月1日(土) 来往舎大会議室 13:00

ガイド実践 慶應キャンパス内の戦争遺跡を分担に応じて各自ガイドする

(司令部地下壕を中心に) 質疑討論

第6回 2008年1月19日（土）13：00 来往舎中会議室

亀岡の司会のもと、先ず、保存の会会长・大西の挨拶、続いて喜田が今年度6回の経過報告を行ない、本日のメインである受講者による3分程度の発言が一巡した。発言は真摯で率直でみな的心を打った。まとめは新井が風邪声に力をこめて述べた。ここで3年目にしてはじめて用意された修了証を受講者に手渡す儀式が行なわれ、第1部を終了した。

第2部は運営委員の発言で時間一杯となった。今回のガイド養成講座は「港北ふるさとサポート事業」の3年目で最終年、今後の事は運営委員会で計られることになる。

★受講者の発言を一部書き留めて第6回の報告としたい。

\*国民は何故戦争に駆り立てられたのか？ 教育の場に戦争の場が持ち込まれ侮辱だ、この辺りの事を勉強していきたい。 \*肩の力を抜いてやってみる。 \*学んだことをそのまま伝えればよいか？ \*登戸の展示は見えるものがあるが日吉は作戦等でそれがないので、具体的に話して欲しい。寄宿舎が資料館になればよい。 \*分からぬことが一杯。細かい所をみのがさない。 \*保存の会の人達は一生懸命、何かのかかわりを持ちたい。 \*続けて勉強、お手伝いしたい。 \*家族・祖先・地域・神奈川・日本、歴史あり。マイナス面を直視し、癒やされることが必要。 \*慶應のチャペルで説明。見えるものと見えないもの、背景を考える。 \*イメージが湧く説明を。やらなくてはならないことが明確になった。 \*自分に語るものがない。壕の中、場所特定の判断過程が不明。関係資料が分かれば勉強したい。 \*説明できる場所でガイドをやった。

★新井のまとめの言葉、みんなでやっていこう、仲よく楽しく、何か一つつかめたら最高、ご一緒しましょう。

修了書受与



(文責 中沢正子)

## 「日吉平和ミュージアム」 づくりの提言

昨年11月28日に私と他1名で次ページよりの『提言』を慶應義塾常任理事西村氏に手渡してきました。日吉台地下壕保存の会発足当時より日吉台地下壕保存と同じように「平和資料館」（仮称）の建設を目的の一つに挙げていました。

数年前に地下壕が整備され、また見学会やガイド養成講座等で保存運動が拡がり、文化庁の詳細調査・研究等、そして我々自身も勉強をして日吉台地下壕の今日の重要性を再確認すると共により深く重要性を認識するに至りました。その様な状況で作られた提言です。西村常任理事も地下壕保存の必要性を認め、日吉寄宿舎の今後の利用方法の一つの案としてこの提言を認識していただけました。これからはこれが実現するためにともに運動を展開していきたいと思っています。

日吉台地下壕保存の会会长 大西章

慶應義塾長 安西祐一郎 様  
常任理事 西村 太良 様

## 「日吉平和ミュージアム」づくりの提言

慶應義塾高等学校教諭  
日吉台地下壕保存の会  
会長 大西 章

慶應義塾におかれましては貴義塾の発展のために日夜ご尽力下され、併せまして日吉台地下壕保存の会には一方ならぬご高配をくださりまして誠にありがとうございました。

日吉台地下壕保存の会は（慶應義塾教職員と市民で組織、現会員300名）、発足以来18年、慶應日吉キャンパスを中心に所在する旧日本海軍の日吉台地下壕（連合艦隊地下壕・人事局地下壕・航空本部等地下壕・艦政本部地下壕）を史跡として保存する運動とともに、地下壕見学を通して小中高校の生徒をはじめ大学生や多くの市民の皆さんにその「戦争遺跡から平和へ」について深く学ぶ意義を伝えてきました。そして、ここ10年来「平和のための戦争展」、「講演会」、そして日吉台地下壕を世間に紹介する出版活動も進めてきました。今日では、文化庁によって国の史跡候補の一つとして日吉台地下壕の詳細調査が行われ、近々その『近代遺跡調査報告書』が発表されるものと伺っております。私たちは、日吉の戦争遺跡が第一級の史跡として選定されるものと期待しています。

慶應義塾では、先の大戦で、教職員・卒業生・学生を戦場に送り出し、多くの「帰らぬ人」を出しました。私たちは二度とこのような悲劇を繰りかえさないことを願い深く学んでいきたい所存です。また私たちが希望する「日吉平和ミュージアム」候補の日吉寄宿舎は、著名な建築家谷口吉郎氏によるもので、建築学の上から貴重な遺構です。この日吉寄宿舎に連合艦隊司令部が1944年9月29日に入り、戦争末期におけるこの寄宿舎から全海軍へ司令を下したことは、全国に例を見ない貴重な戦争遺跡の一つでもあります。

慶應義塾は、最高学府・学術の中心として、広く知識を授け専門の学芸を教授研究し、文化的進展に寄与しています。特に文化財保護の面で見ると、昭和初期にはじまった日吉キャンパスの整備に伴い、弥生時代の住居址や古墳の発掘調査が三田史学会の手で行われました。慶應義塾は、発掘された多くの弥生式住居址のうち5基を永久保存しました。その後、矢上古墳の発掘調査では重要文化財に指定された「銅鏡」、加瀬山南麓から出土した国宝「秋草文壺」など、いずれも慶應義塾の所蔵物として大切に保管されています。このように慶應義塾は学会と文化財保護のために大きな貢献をしてきました。これに加えて今日では、この日吉キャンパスに存在する日吉寄宿舎と日吉台地下壕の保存とともに文化的活用が期待されています。私たちはここに貴重な戦争遺跡から平和について深く学ぶとともに学生生活の象徴である日吉寄宿舎を柱にした「日吉平和ミュージアム」を建設したいものと提言いたします。そして多くの学生・研究者・市民にいささかでも貢献できればと思っている次第であります。慶應義塾におかれましてはよろしくご賢察くださいまして私たちの希望が叶えられますようお願い申し上げます。

### 記

- 1 「日吉平和ミュージアム」は、連合艦隊司令部地下壕（戦争遺跡）ならびに日吉寄宿舎（展示資料館）の全体を候補として考えます。

**2 展示資料館には、分野別展示コーナーを設置します。**

**①日吉の自然と歴史のコーナー**

—日吉の考古をはじめ歴史関係資料などを展示—

**②アジア太平洋戦争下の塾生生活のコーナー**

—戦時下の塾生生活の関係資料、戦没者資料などを展示—

**③慶應日吉寮と谷口吉郎のコーナー**

—寄宿舎・ローマ風呂を中心とする関係資料を展示し、学生生活の象徴・文化財としての価値を学ぶ—

**④日吉の海軍と戦争遺跡（連合艦隊司令部地下壕その他）のコーナー**

—軍令部・連合艦隊司令部・人事局・航空本部・艦政本部など—

**⑤展示資料館内には、図書コーナー、学習室、収蔵庫を整備します。**

—文献資料を書架に用意して、40人くらいが学習・討論できる場—

**3 南寮と中寮の間にあった地下壕へ直行する階段を復元し、地下壕見学のオリエンテーションの場にすることとあわせ地下壕内にも説明板を設置します。**

以上

第15回 川崎・横浜平和のための戦争展 2007報告

亀岡敦子



冬の行事は、なにより天気が気になりますが、1月15・16日は穏やかな晴天と、新聞報道（朝日・神奈川・東京）のおかげで、平和館は多くの来場者で賑わいました。実行委員会が運営にあたる、とは言ひながら過去14回は、日吉台地下壕保存の会の運営委員と法政二高教員数名が、ギリギリの人手と時間でやり繰りしてきました。賛助金も大部分は、実行委員が出し合ったものと、日吉台の会員の皆様のご厚志によるものです。しかし今回は、昨年結成された「旧陸軍登戸研究所の保存を求める川崎市民の会」の方々が加わり、運営が充実しました。

運営だけではなく、展示内容と討論にも、深みと具体性が加わったと思います。今年のテーマ「戦争

遺跡がいま問い合わせるもの」は、明治大学において登戸研究所の資料館造りが実現しつつあり、日吉台地下壕が地域の小中学生の歴史学習の場として定着し始め、戦争遺跡が多少注目されるようになった「いま」こそ、重要だといえるでしょう。

○展示 登戸研究所は、従来の川崎市在住の写真家小池汪さん撮影の白黒写真に加えて、新たに最近の様子がわかり、なにか身近に感じられます。ガラスケースには、ここで印刷された中国の紙幣や、登戸研究所が明るみに出るきっかけとなった雑書綴りなど実物資料が展示されました。蟹ヶ谷通信隊地下壕に関しては、平和館が数年前に見やすい模型を制作しており、ボタンをおしては、写真と見比べては説明を確かめている人を多く見かけました。日吉台地下壕は、作戦室や通信室などの写真のほかに、横浜市港北区の支援「ふるさとサポート事業」の活動や、寄宿舎の設計者である谷口吉郎についても展示しました。実物資料としては、連合艦隊司令部壕内の残土からでた、食



展示



血に染まり、弾痕のこる軍服

る国の平和の象徴ロボットの9条君が、最後には追い詰められて、銃を持つことになるのかと、いう重いテーマの人形劇です。最後に響く軍靴の音が不気味です。

○紙芝居 昨年好評だった、成田富雄さんの壮絶な体験の自作自演の紙芝居「満蒙開拓青少年義勇軍とシベリヤ抑留」を今回も語ってもらいました。悲惨な体験が時としてユーモラスにすら感じられ、その後なにか考えさせられるのです。

若者の発表とシンポジウムも、盛んな発言がなされ、「戦争と平和」をどのように伝えていくべきか、参加者全員、大きな宿題を出されたと言えるでしょう。

器の一部やガイシ、木片などがあります。市民が描いた絵画“戦争の記憶”は、50枚以上の大絵画展となり、空襲や学童疎開の絵から、真摯な思いと願いが伝わるコーナーとなりました。これらの展示のなかで、全員足をとめたのは、当会会員の山田譲さん提供の、中国戦線で戦死した伯父さんの、血に染まり、弾痕のこる軍服や軍隊手帳などの遺品の前でした。

○人形劇 毎回私たちは朗読や一人芝居など、芸術的な取り組みを必ずプログラムに入れてきました。今年は、「ひょっこりひょうたん島」で有名な人形劇団ひとみ座の、戦争への反省と平和への願いをこめて作られた「9条君の運命」を上演しました。あ



紙芝居 成田富男さん

今回も川崎市が後援名義使用を承諾してくれました。平和館の使用にも、大変協力的で、人手も資金も乏しい、私たちにとっては大変有難いことでした。一年に一度の催しに、いったい何人来て、何人の心を動かしたのかと問われれば、湖に小さな漣を起こしただけかもしれないが、その漣が大事なのだと信じて、これからも続けようと思っています。支えてくださる方々に、心から感謝いたします。

## 報告

## 「いま」をめぐる二つの試み

大湖賢一



若者の発表

ての日本という一方的な歴史観の押し付け」(発表レジュメ)に対する疑問を表明し、「歴史教育のなかでの平和教育」の必要性を強調された。限られた字数なので多くは書けないが、歴史教育の現場では早くからこのような「押し付け」は克服されるべきことであり、その背景にある社会的な構造に認識を育てていくことが重要であるとされている。大屋登美雄さんの報告も興味深かったし、日本映画学校のメンバーが手探りしながら登戸研究所のドキュメンタリーを製作している姿にも心打たれた。

同日午後には「シンポジウム 戦争遺跡がいま問いかけるもの」が行われた。こちらは見事に『元若者』(失礼!)の人たちの話であり、現在の戦争遺跡保存運動の全体を俯瞰できるような実に贅沢なシンポジウムだった。「平和のための」戦争遺跡の保存、活用の重要性が改めて確認できた。

すでに戦争を知っている世代が少数派である現在、若者たちの感覚を大事にしながら同時に伝えておきたいこと、討議しておきたいことは何なのか。よくよく考えていく必要があると思った。

今回は「いま」とタイトルにある二つの試みが行われた。

まず2日目の午前中に「若者の発表」が行われた。戦争展の隠れた名(?)コーナーでいまでもいろいろな試みがあった。今年は、「いまと歴史と歴史教育—それぞれの視点から—」という題で3本の報告が行われた。そのなかでも森優次さんの「平和教育と私の歴史観の形成」は、会場の多くの参加者—特に年齢の高い人々の『戸惑い』を引きおこしたように思う。長崎出身の報告者は、自分が長崎で受けた『平和教育』によって、「(戦争に対する:大湖補足)執拗なまでの恐怖のすり込み、被爆地長崎を通した歴史観や加害者とし



シンポジウム

「戦争遺跡が問いかけるもの」(元若者)

**投稿**

今野 淳子

今回「平和のための戦争展」に初めて参加しました。

「登戸研究所」の保存のための市民の会の活動に参加してまだまもなくパネル展示も初めての経験です。私たちの展示用写真は今までのものに二十枚ほどにプロのカメラマンの写真を加え、地図や風船爆弾のミニチュア模型、市民の会の活動までかなりのスペースをもらい、展示しました。その他にわたしも始めて目にする本物の偽札や石井式ろ過器の一部、研究所の秘密を解く鍵の一つのタピストの雑書綴りなど貴重な物的遺産も展示されました。

先の戦争のイメージは戦艦による砲撃シーンや主要都市を陥落して進軍しているシーンなどが多いと思います。でも「登戸研究所」では武力とは異なる戦争が研究され、開発され実行されていたこと多くの人に知って欲しいと思います。こうした展示もそのきっかけになればと思いますが、やはり展示を見ながら説明することができれば一番です。押し付けがましくそれらをするにはどうすればよいかなど課題と思いました。

今年九月に明治大学に展示資料館ができる計画ですが、その館内はどのようになるのだろう。その際も市民の会としてどのようにかかわっていったらよいかなども考えなければなりません。

二つの戦争遺跡の展示を初めて見ました。名前を知っているだけでした。蟹ヶ谷地下壕は東京通信隊の地下壕であり模型が常設展示されていました。日吉台は海軍の連合艦隊司令部の地下壕であったこと。この地下壕から司令部は敗戦が濃くなっているにもかかわらず特攻隊に出撃命令を出し、たくさんの若い命を犠牲にしたということ。特攻機が突撃すると、「ツーン」という通信音をこの地下壕で傍受したという。遺跡が戦争とはどんなものかを具体的に語ってくれました。

川崎にある保存運動がそれぞれの地域で広まり、つながっていけば大きな力になるだろうと心強く思いました。私たち「登戸研究所」はまだまだこれからです。また運動の先輩に当たる日吉台の方が「結果を急に求めず、息長く運動していくこそ地域の人が“保存運動やっているの知ってる”というふうになりはじめて市も動いていくと思ってやっていくこと」と言われたことに励されました。

**調査報告**

## 大綱小学校時代の戦争体験記

茂呂

——港北区菊名在住市民からの聞き取り調査記録より抜粋——

新年の1月8日の午後、篠原北町在住のSさん、Nさんから、大綱小学校在学当時の戦争体験の話を聞きしました。Sさんは、昭和7年9月港北大豆戸町で出生、昭和14年4月に大綱小学校入学、昭和20年3月に卒業4月から東横学園に進学されています。Nさんは4歳年下のSさんの妹さんで昭和18年4月に大綱小学校に入学。聞き手は、保存の会の茂呂、聞き取り場所は茂呂宅。

☆アツ玉碎でびんた

茂呂 戦争というものをいつごろ意識しましたか。

- Sさん 4年生ぐらいから。戦争へ恐怖をもちました。空襲の警戒警報がでると学校は下校。
- Nさん 小学校3年生の時終戦を迎えるました。終戦の詔勅は覚えています。庭で皆でラジオをきいた。
- Sさん 玉音放送の意味はよくはわからなかつたが、こどもなりに戦争に負けたんだなと思った。食べるものもなくなってきたし、原爆や玉碎の話を聞いていたからね。
- 茂呂 玉碎の話って何ですか。
- Sさん アツ島で日本軍が全滅した（昭和18年5月30日・・筆者注）ということを校長先生から聞きました。5年生だったんですよ。その時の若い担任の先生が生徒全員にびんたをやつた。たたかれたんです。そして、皆で熊野神社にお参りに行つたのです。
- 茂呂 何でびんたをしたのですか。
- Sさん 気合を入れたのです。先生が燃えちゃつていたから。
- 茂呂 日本が負けたという報道はアツ以前にありました。
- Sさん それ以前にはありません。それまでは、日本軍がアメリカをどうやつつけたかという報道ばかりだった。また戦争なんか嫌だなんてことは一切言うことはできない。憲兵がいるし。・・・金物を出せとか、食べるものも少なくなってきて、だんだんと戦争はいやだなと思うようになった。

### ☆空襲の記憶

- 茂呂 空襲の記憶はいつからありますか？
- Sさん 最初は、空襲というよりも偵察で飛んでくる飛行機です。警報が鳴り、生徒はみな下校。
- 茂呂 最初の空襲の記憶は？
- Sさん 印象として残っているのは、夜空襲があり、飛行機から針金みたいな、リボンみたいなものが一杯落とされるのです。「あらきれいだな」なんて思いました。それが戦争の始まりです。
- Nさん 今の菊名ヒルトップあたりが軍の陣地だったので。サーチライトがぐるぐる回っていたんです。だからこの辺は狙われたのです。いつか昼間ですが、アメリカの飛行機が落ちたんです。落下傘で兵隊が降りてきた。町の青年の人が棒を持っていました。
- 茂呂 大綱小学校が焼けたときの記憶はありますか。
- Sさん 焼けということはすぐ知りました。ただ、焼夷弾がおとされ焼けているときはうち（防空壕）にいたので見てはいません。
- Nさん 焼夷弾が落ちてくるとき、川崎のほうをみるとそれが雨のようにふっているのをよく見ました。川崎のほうが真っ赤になっていたことを覚えています。ただ、私は兵隊屋敷があったころ、大綱小学校の分校ができて新横浜の正覚院というお寺に通っていました。
- 茂呂 兵隊屋敷って 兵舎のことですか。
- Nさん そうです。今のヒルトップに兵舎がありました。

### ☆軍隊が入ってきた大綱小学校

- 茂呂 大綱小学校80年史には、大綱小学校にも軍隊が入り、その前に大綱小学校にいくつかの分校ができます。大綱小学校は軍隊が入ってきても一部の生徒はそのまま校舎として使っています。ただ、学校が焼けると、新たに分校が作られ本校に通っていた人も分校にいったと書かれています。
- Sさん 私は軍隊が入ってきて大綱小に通いました。軍隊がいた記憶もあります。さきほど戦争っていやだと言いましたが、学校で、二等兵が上等兵にひっぱたかれているのを何度も目にしました。それが今でも印象に残っており、ひどいことをするなーと思いました。その時殴っている兵隊さんをにらんだのよ私は。勉強するところに兵隊がいたのです。

茂呂 兵舎と教室は分れていたのですか。  
Sさん 分かれていたのしようが、昼間などはごっちゃでした。水道のそばで兵士が炊飯かなんかしていたのしよう、何かへまでもしたのしよう、上等兵がてぬぐいをぬらして、ピーンピーンとたたいているんです。子どもの目の前で子どもに関係なく。それが兵隊さんへの印象です。

### ☆大倉山が空襲を受けた理由

茂呂 大綱小学校が焼かれた頃、大倉山の駅周辺が焼かれているのですが、ご存知ですか。  
Sさん 後から知り、焼けた翌日見に行きました。大倉山駅近くに精神文化研究所あり、また、東横学園近くには書類があったので狙われたのしよう。私は、昭和20年の4月に東横学園に入学しました。私なんかその書類を焼いたんです。すごかったんですよ。重たくて毎日毎日。師岡から鶴見にいく道の登りきったところに横穴の倉庫があつたのです。終戦の直後ですが、残しておくとまずかったのしよう。字は読めないけどすごい書類でした。何の書類だったのかしら。何日も。上級生と一緒にやりました。

茂呂 この書類は霞ヶ関の海軍省が空襲を予測して、書類を守るためにここに運んだのです。  
Sさん 少しあっておけばよかった。・・・・

茂呂 精神文化研究所は、日吉のある連合艦隊司令部の移転の候補地にもなっています。実際、海軍の気象部が入りました。米軍も大体は軍関係の施設がここに集まっているということを知っていて、大倉山周辺を空襲したという可能性はありますね。

### ☆こわかった機銃掃射

Nさん 空襲になると皆並んで学校から帰ってくるのです。

Sさん 帰ってくるところは殆ど煙、アメリカの飛行機がくると数少ない木の陰に隠れ、豚小屋の上にげこんだ。機銃掃射は家のまどから顔をだしてもバーと撃ってくる。低空で。警戒警報と同時に来るんです。新羽の方では亡くなられた方もいたようです。機銃掃射はすごく恐ろしかった。

茂呂 そんな危ないのに家の人はよく学校へ行かせましたね。

Sさん もちろん登校するときは大丈夫だから。空襲警報が出て帰ってくる。一番危ないときに帰ってくるんです。はじめのうちは、戦争ってそんなことをするなん思わなかつたから、警報がなると学校がなくなるのでうれしくてのんびり帰ってきたのです。だんだんに機銃掃射でやられたなんて聞くと怖くなってきた。焼夷弾の被害でも拾ってきた不発弾が爆発して顔まで火傷をおった子どもがいました。東横学園の倉庫はいつごろ作ったのですか。またあんなすごいコンクリートの壕を造るのに相当長い期間かかったのですね。

茂呂 工事にたずさわってた人の証言によると、桜の咲く頃作ったというものがあります。昭和20年の4月ですね。日吉の連合艦隊の地下壕は、数箇月で完成させています。

Sさん 大綱小学校に入った軍隊は、この地下倉庫を作るために入ったのではないですか。

### ☆米軍の記憶 若い娘は津久井の方に疎開をしました

茂呂 十分考えられることですね。話はかわりますが、戦後の米兵の記憶はありますか。

Nさん 横浜線に米兵が乗っていることが多く、ギブミーチョコレートともらいに行った。

Sさん 米兵が入る前には若い娘はおかされるという噂がひろまり、この地域の若い方は随分田舎例え津久井方に疎開しました。うちの姉も荷物は運んだ。でも最初に黒人の兵士に横浜線でたまたまあったがなにもなかつたので、疎開をやめた。綱島に遊郭があり、アメリカ兵がよくそこに来た。東横線もそのようなアメリカ人が沢山乗っていた。綱島ってそういう役割を果たしていたのです。普通の人はそれで守られていたのですね。

茂呂 日吉もそういう役割を果たしていた場所はあったようです。貴重な話を難うございました。

## ☆ミニ情報

◎ 広報よこはま港北区版(2007年12月号)に「日吉台地下壕」の活動が紹介されました。ふるさとサポート事業(愛称ふるサポ)の活動グループの中の一つとして紹介されています。ご覧になりたい方は運営委員会まで。

◎新藤兼人監督「陸に上がった軍艦」ご覧になりましたか?95歳の新藤兼人映画監督が証言者として出演し、自らの戦争体験を語ったドキュメンタリー映画です。終戦の1年ほど前32歳で招集され、広島県呉海兵団に二等水兵として入隊した新藤監督が、軍隊という組織の不条理さを弱兵の目線で辛辣に、滑稽さも込めて描いた作品です。退却と見せかけるため靴を反対に履いて前進する切り込み作戦訓練のばかばかしさと哀しさなど様々なエピソードを通して描いています。

「戦争と軍隊」その本質を考えるための恰好の映画です。プログラムご覧になりたい方は同じく運営委員までどうぞ。

## 活動の記録

11/14 運営委員会 会報85号発送(慶應高校物理教室)

11/15 地下壕見学会 矢上小学校6年生 112名

11/17 ふるサポ中間報告会(港北区役所)

11/21 地下壕見学会 ひかり九条の会 24名

11/22 地下壕見学会 セカンドライフクラブ 32名

11/24 定例見学会 45名

11/26 地下壕見学会 慶應高校3年生47名 先生2名

11/27 地下壕見学会 慶應高校1年生81名 先生3名

11/28 「日吉平和ミュージアム」づくりの提言を慶應義塾へ提出

12/1 第5回ガイド養成講座(地下壕見学ガイド実習)

12/4 地下壕見学会 駒林小学校6年生94名 先生4名

12/5 平和のための戦争展実行委員会(法政第二高校教育研究所)

12/6 平和のための戦争展開催についての記者会見(川崎市役所記者クラブ)

12/14 平和のための戦争展 準備作業(川崎市平和館)

12/15~16

『第15回川崎・横浜平和のための戦争展「戦争遺跡がいま問いかけるもの」私の街から戦争が見える』開催

実施団体 日吉台地下壕保存の会・蟹ヶ谷通信隊地下壕保存の会・旧陸軍登戸研究所の保存を求める川崎市民の会(川崎市平和館 後援 川崎市)

12/19 地下壕見学会 日吉南小学校6年生85名 先生5名

12/22 定例見学会 11名

12/26 地下壕見学会 洗足学園高校 17名 先生2名



慶應高校

2008年

- 1/8 地下壕見学会 歴史散策会 15名  
1/15 地下壕見学会 法政第二高校3年生 83名 先生 3名  
1/19 第6回ガイド養成講座(まとめ・終了式 来往舎中会議室)  
日吉台地下壕保存の会新年会(来往舎ファカルティラウンジ)  
1/23 地下壕見学会 くげぬま探求クラブ企業研究会 12名  
1/26 定例見学会 55名  
1/30 地下壕見学会 w e 21 ジャパン・港北区副校長会 28名  
2/1 地下壕見学会 中央大学 6名

## ◎予定

2/6 運営委員会 会報86号発送(慶應高校物理教室)

《地下壕見学会》

定例 2/23 - 3/22

3/15 港北ふるさとポート事業 活動報告会・交流会「港北寄りあい処」



見学会ガイドポート参加のご連絡は見学会窓口まで。お待ちしています。

定例見学会は毎月第4土曜日に行ってています。なお日程が変わる場合もありますので必ず見学窓口に申し込んでください。

(見学申込先 TEL&FAX 045-562-0443 喜田)

連絡先(会計)亀岡敦子:〒223-0064 横浜市港北区下田町5-20-15 TEL 045-561-2758  
(見学会・その他)喜田美登里:横浜市港北区下田町2-1-33 TEL 045-562-0443  
ホームページ・アドレス:<http://hiyoshidai-chikagou.net/> (新アドレス)

日吉台地下壕保存の会会報 (年会費) 一口千円以上  
発行 日吉台地下壕保存の会 郵便振込口座番号 00250-2-74921

代表 大西章 (加入者名) 日吉台地下壕保存の会  
日吉台地下壕保存の会運営委員会